

KITAKEI-Report

No.150
February 2022発行：北恵株式会社 〒541-0054 大阪市中央区南本町3-6-14 TEL.06-6251-6701
<http://www.kitakei.jp/>

建築物省エネ法 改正案は「検討中」

1月17日に第208回通常国会が開催した。本国会では、国土交通省が2025年から全ての新築住宅に省エネ基準適合を義務付ける「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律等の一部を改正する法律案（仮称）」を提出予定だったことから、住宅業界ではその成立を巡り、注目が集まっていた。

ところが1月17日、国土交通省が発表した提出予定法案の中に同法案は記載がなく、『「提出予定」以外の検討中のもの』として分類されていることが分かった。夏の参議院選挙を前に会期の延長が見込め

ず、日程の確保が難しいことなどが考慮され、こうした対応になったものと思われる。

改めて同法案は今後の住まいづくりと我が国の脱炭素社会実現に向けた取り組みに大きな影響を与えるもの。2025年の省エネ基準適合義務化を見越した上で今後の周知期間を考慮すると、なるべく早い段階での成立が望まれている。

引き続き本レポートでは同法案の動向について分かり次第、報告していく予定だ。

有事に対応できる家づくりを

レジリエンス住宅とは、自然災害など外的要因によって住宅に被害が及んだ場合、いち早く復旧できるようにする住宅のこと。昨今は脱炭素やZEHなどの取り組みが推進されていることもあり、非常時に自立したエネルギーの供給が可能となる住宅をレジリエンス住宅と説明することもある。しかし、インフラが絶たれた場合を想定した対策以外にも住まい手を守るための工夫は挙げられる。

気候変動により年々頻発化し、激しさを増す自然災害――。一昨年、国土交通省は宅地建物取引業者に対して水害ハザードマップを用いた対象物件における水害リスクの説明を義務化した。

その水害リスクについての説明を受けられるのは新たに住宅を取得しようとするユーザー達に限られる。そのため、すでにその土地に住んでいるユーザーは自分の住んでいる土地の水害リスクについて自ら把握しておかなければならない。

このような水害に対する取り組みのうち、今回紹介したいのが「垂直避難」という考え方。これは水害により洪水が発生した際、住宅の屋上へと避難しやすくするというものだ。

洪水が発生した際に水位が上昇し、住宅の1階から2階へと浸水が進んでいる場合、居室内に居続けることは危険だといえる。何故なら、その際住まい手は屋根に避難せざるを得ない状況に追い込まれるからだ。しかし三角屋根や瓦屋根などを採用した住宅の場合、2階の窓から屋根に避難するのは難しい。

体の不自由な方やお年寄りであれば状況はさらに厳しくなり、助かったはずの命が2階からの転落などによって奪われてしまうケースも想定される。そこで屋根を陸屋根とし、垂直避難しやすい経路をあらかじめ作っておけば洪水で水位が上がっている際にも冷静な避難が可能となる。

また平常時には陸屋根で家庭菜園を楽しむなど、庭としての活用もできる点が魅力だ。

自然災害の発生時には二次被害として火災が発生するケースもある。例えば、停電が解除された際に破損した住設や配線から火が出る「通電火災」が挙げられる。

災害が発生していない平常時においても火災は全国で1日当たり103件発生しているというデータが最新の消防白書（令和2年版）より出ており、レジ

リエンス住宅の「災害時に住まい手の命を守る」という視点から無視できない。

同白書の中で令和元年中の火災による死者発生状況をみると、住宅火災が発生した際には「逃げ遅れたことによって亡くなる方が最も多く、全体で見ると47.3%と約半数を占めた。さらに逃げ遅れた主な要因のトップ3は「病気・身体不自由」、「熟睡」、「延焼拡大が早く」と読み取れ、身体が不自由な方々を中心として被害が発生していることが分かる。

そんな住まい手を守るためには住宅向けのスプリンクラーがおすすめといえる。介護が必要なお年寄りや身体の不自由な方が自力で避難できない場合でも、火災発生時の時間稼ぎに期待できるからだ。とはいえ読者工務店の中にはあまり馴染みがないだろう。その原因の一つは補助金の制度がないことが挙げられる。

一定の広さ以上を持つ養護老人ホームなど、不特定多数の人々に被害が及ぶと想定される施設についてはスプリンクラーの設置が義務化されており、設

置に対する補助制度も用意されてきた。

しかし、住宅についてはまだ整備が進んでいない現状がある。消防庁は一般住宅におけるスプリンクラーの設置を推奨しているものの、住まい手の経済的負担が増えることは否めない。

(一社)日本消火装置工業会の公表しているデータによると、標準的な4LDKの新築戸建住宅に設置する住宅用スプリンクラーの材工価格は一室あたり35～85万円という。建物の構造などによって価格は増減するものの、導入できる住まい手は限定されてくるだろう。

そこで提案したいのが住宅用の「自動消火装置」だ。これは既存の住宅でも後付けで対応できる消火装置で、躯体内に水道管を配管するスプリンクラーに比べて施工が容易といえる。同工業会によれば価格は2.8～10万円という。居室内の美観的問題なども考慮する必要はあるが、高齢者や身体の不自由な方と暮らしている住まい手には火災発生のリスクが想定される場所へ設置することが望まれる。

換気の意識薄れたか

現在の新型コロナウイルス感染拡大状況は2021年8月の感染拡大を彷彿とさせる。中でもオミクロン株の感染が拡大している現状に鑑みて、(公社)日本医師会から「第6波への突入」との認識が示されたり、冬季を迎えたことによるインフルエンザウイルスへの罹患リスクなどが懸念されている。

このほど、生活者起点のリサーチやマーケティング支援を行なう(株)ネオマーケティング(東京都渋谷区)は「生活者意識調査」の内容を公表。換気に対する住まい手の意識変化が如実に表れた。これは全国の18～79歳の男女1000人を対象に「生活者意識」をテーマとしてインターネットリサーチを行ったもので、定期的実施している。

同調査の中で「コロナ対策の実行状況」について

聞いたところ、「こまめに換気をした」住まい手が7月から11月にかけて9.3ポイント減少していた。その一方で、「出かけるときはマスクをつけた」と回答する住まい手や「店舗入口などに設置されている消毒液を利用した」という住まい手は同月間で見ても双方0.4ポイント以下の減少量に留まった。

これらの調査結果から、住まい手はマスクの着用やアルコール消毒の習慣については定着したものの、比較的換気の習慣はついていないことが分かる。

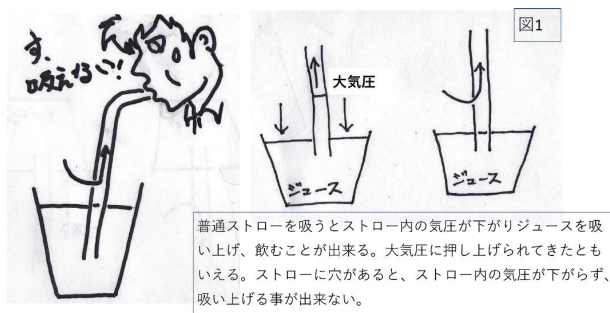
感染者数の低下や長く続いたコロナ禍への慣れからか、感染防止対策への意識が薄れつつある住まい手に対して工務店は換気の重要性を啓発する必要がある。

連載：木造住宅の歩み (第14回)

前回の続きです。「第3種換気で計画換気をするには、高気密の必要がある」というお話の中で、その例えとして「穴の開いたストローではジュースを飲めない」と比喩をしました。それはどういうことでしょうか？ 穴の開いたストローでジュースを飲む

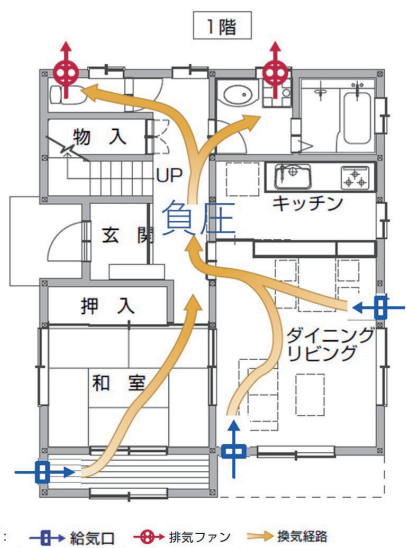
うとした場合、途中の穴から空気が入ってきて、ストロー内の気圧が下がりにません。結果としてジュースを吸い上げることが出来ません(次ページの図1参照)。

これと同じことが住宅でも起こってしまうのです。



普通ストローを吸うとストロー内の気圧が下がりジュースを吸い上げ、飲むことが出来る。大気圧に押し上げられてきたともいえる。ストローに穴があると、ストロー内の気圧が下がらず、吸い上げる事が出来ない。

第3種換気は基本的にトイレや脱衣所などの湿気や匂いの発生する場所に排気ファンを設置することが一般的であり、そうすることで湿気や匂いが室内に拡散することを防止し、同時に負圧となった居室の給気口から新鮮な外気が入ってくるという換気方式です (図2参照)。



凡例: 給気口 排気ファン 換気経路

図2 換気経路

この場合、各居室の空気を計画通り換気するには、想定外の経路から外気が流入してきてはいけません。途中の隙間から外気が流入するようでは、居室が負圧とならず、外気を引っ張る事が出来ないのです。これが、「穴の開いたストロー状態」です。つまり、居室に設置した給気口から正しく外気が導入され、計画通りの換気量を確保するためには高气密である必要がある。それが第3種換気といえます。

この「穴の開いたストロー」は気密と換気を説明する上で私がよく使う表現で、判り易い表現を思いついたと自画自賛していたのですが、ネットを見たら使ってる人いましたね。考える事は、皆同じか…。

さて、断熱・気密・換気は相互に関与していますから切り離して考える事は出来ませんが、次に気密に関する話から換気に関する話へと軸足を移していきます。

換気には第1種～第3種の3通りの換気方式 (図3参照) がありますが「どの方式が良いのでしょうか？」という事をたまに聞かれます。

ちょっと考えてみましょう。既に第3種換気は市場の多くを占めており、計画的な換気には気密が重

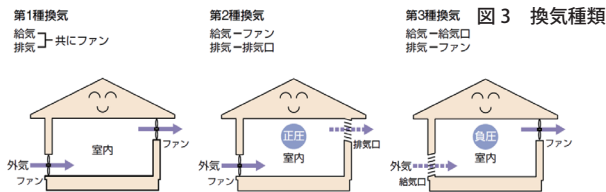


図3 換気種類

要であるということに触れました。さらに加えて第3種換気を活かす為には、実は、お施主様の住まい方が重要な要素として働くのです。

皆さんはご自宅のトイレや脱衣所等の窓は閉めていますか？ 開けていますか？ 私の家は第3種換気方式なのですが、うちのカミさんは、冬は寒いから窓を閉め、夏は暑いから開けている様なことが多いです。匂いの事もあるので慣例的に開けているようにも思います。この状況をよく考えてみると、特に夏場は計画換気が行われていない状況になっているのだと今更ながら気づきます。つまり、トイレや脱衣所等の窓からどんどん外気が流入するので、この部分だけで換気が完結し、それ以外の室内空気を全く引っ張らなくなるのです。まさに穴の開いたストロー状態。トイレ、脱衣所だけに排気ファンが設置されているわけではありませんが、これでは大きな能力低下を生じます。特にご家族にシックハウスの症状があるご家庭なら、夏場は有害物質も揮発されやすく、濃度が高くなりがちなので、場合によっては大問題になることもあります。つまりせっかく気密性能の高い住宅であっても、排気ファンが設置されている部屋の窓を開けてしまうと、全く計画換気はなされないという状況になってしまうのです。

本当に換気が必要とするご家庭ではそういう事も理解しなければならぬのが第3種換気です。ただ、特にシックハウス症状もない、花粉も気にしないというご家庭ではそこまで気にする必要はなく、「気密住宅、窓を開ければただの箱」なんて格言もできたくらいです (笑)。これは悪い意味ではなくて、結局窓を開ければ換気は行われる訳だから、夏場は居室の窓も解放して空気を流入させ、冬は寒いから窓を閉めて換気扇で結露を起こさない程度に換気するという生活習慣に適しているのが第3種換気といえるのでしょうか。あまり換気を気負わずに、窓を開ければ「換気をしてくれるやん！」的な感じです。

第3種換気は肩の力を抜いて、おおらかな気持ちで受け入れる人向き？！ 万人向きではないかもしれませんが、大多数に受け入れてもらえるのが第3種換気ではないでしょうか？

次回、第3種換気はどのような場合に向かないのです。 [つづく] 北恵レポート担当 O

キタケイの提供する2つのプライベートブランド
環境・ぬくもり・素材をテーマとした各種住宅資材 “ スプロートユニバーサル ”
天然木にこだわったフローリングや壁材 “ リラクシングウッド ”
企画・製造から販売までトータルにプロデュース、心からご満足いただける住まいづくりを
バックアップします。



www.sprout-univ.com

<p>環境 SPROUT UNIVERSAL BLUE こちよい住環境</p>	<p>ぬくもり SPROUT UNIVERSAL ORANGE 住まう人のために</p>	<p>素材 SPROUT UNIVERSAL GREEN 永く使ってほしいから</p>



www.relaxssingwood.com

リラクシングウッド
抗ウイルス加工 フローリング ウイルスガードコート シリーズ

